

抜けそうになり・・・次の瞬間・・・

「ぶぽっ！！」勢いよくデカチンがはじき出された。そして・・

「ぶしゅっ！ぶしゅうっ！！！！ぶっしゅうううう～！！！！！！」

マキはのけ反りアクメをキメたまま、大量の潮を噴き出した。

「ギャピリンッ★★★★！！！！・・・ぶわああああおおお★★★★！！！！」

再度、大潮吹きをくらってしまい、無様に叫んでしまう俺。

「ぐぐぐっ！！！！・・・ピクピク！！・・・ピクピクッ！！！！」

敗北Mチンポは勢いよく膨らむと、

「どぴゅっ★！ずぴゅっ★！ぬぴゅ★！ぴゅ★！ぴゅ★！」一瞬で、無様に暴発した。

敗北早漏ドっピュンをキメ、チンポをヒクつかせ、もがきまくる俺・・

そんな俺を尻目にアンデュークはマキを降ろすと今度は俺の前で寝バックの体位をとった。

俺からはアンデュークの尻とマキのビチョヌレオマンコが もろ見えだった。

「オラオラァ♥♥まだまだだぜえ〜♥」

アンデュークはマキの足を抱え、デカチンを後ろからぶち込んだ。

「あ♥あ♥ああ♥・・・ちょ・・・ちよっと・・・亀頭が・・・お・・・おっきいいん♥」

ぬっぽりとデカチンを咥えこむマキのオマンコ。

「えへへへへ♥♥・・・れろれろれろお〜♥」

アンデュークは寝バックの体勢のまま、マキにディープなキスを食らわせた。

「ああん♥あ♥・・・あ♥・・・あ♥・・・あ♥・・・あ♥」

マキは全身をピクつかせてアンデュークのキスに応じている。

アンデュークはマキのデカパイを後ろ手に揉みしだきながら、先刻同様、腰を動かした。

「ぬこ♥！ぬこ♥！ぬこ♥！ぬこ♥！ぬこ♥！ぬこ♥！・・・」

優しくもリズムカルな追っ突きでマキのオマンコを ほじくりまくるアンデューク。

「ああああん♥！！！！すごおおいしい♥♥・・・ま、またあ♥・・・でで、出ちやううう・・・

出ちやうううううう〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜♥♥！！！！！！！！！！」

「びちよ♥びちよ♥びちよ〜っ♥びちよ〜っ♥びちよ〜〜〜〜っ♥♥♥♥！！！！！！」

アンデュークの極上な激エロテクニックでメッロメロにされ、まるで おしっこを漏らしたように大量に潮を漏らしまくるマキ。

「う、上手すぎるうう♥♥♥♥・・・このチンポ・・・すごく良いいん♥♥」

完全に堕ちるマキ。「ファックミー♥ファアクミィィィー~~~~♥♥♥♥！！！！」

お漏らしを大量にキメながら、チン媚びしまくった。

「次は・・・種付けファックだぜ♥♥」

アンデュークはお漏らししたままのマキをマングリ返しの恰好にさせると、一気に腰を降ろし、デカチンをぶち込んだ。

「あっへえ〜♥しゅごいいいん♥♥♥♥♥また違う体位い♥♥！！！！」

「ぐお！オマンコ締まるうう♥！！！！」アンデュークが叫ぶ。

「デ、デカ・・・すぎて・・・クリがあ・・・クリがあ・・・擦れて・・・きもちいい♥」

「ズチュ♥ヌチュ♥ネチュ♥ニチュ♥ズチョッ♥ズチョ♥ズチュ♥・・・」

「あひい♥クリに・・・クリに当たるう♥擦れてイクう♥デカチン大好きい～～♥♥♥♥

ナカもクリもメチャクチャになっちゃうううう～～♥♥♥♥」

「どぴゅっ★！どぴゅっ★！ぴゅくっ★！ぴゅっ★！ぴゅ★・・・」

俺はアンデュークのデカケツが上下にスライドし、その都度、深くマキのマンコに飲み込まれていくところを、目ん玉が飛び出すくらい大きく目をひん剥いて、じっくりガン見したままの状態で、またまた敗北ノーハンドマゾ射精をキメてしまった。俺のパンツの先端からはスperlマが大量に滲み出ている。

「俺も、そろそろ・・・イキそうだ・・・ぜ！！」

アンデュークはそういうと腰のスライドを早めた。